

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) 三菱重工業株式会社神戸造船所二見工場

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

別紙1のとおり

(目標・計画等の公表の方法についても記載すること)

1-2 環境保全活動に関する組織体制

別紙2のとおり

2 環境保全活動の実施状況等

項 目	取組結果	今後の取組計画
	別紙3のとおり	

環境保全に関する基本方針

当所の環境方針は、環境／安全衛生・放射線管理方針として一本化されており、次のとおり。

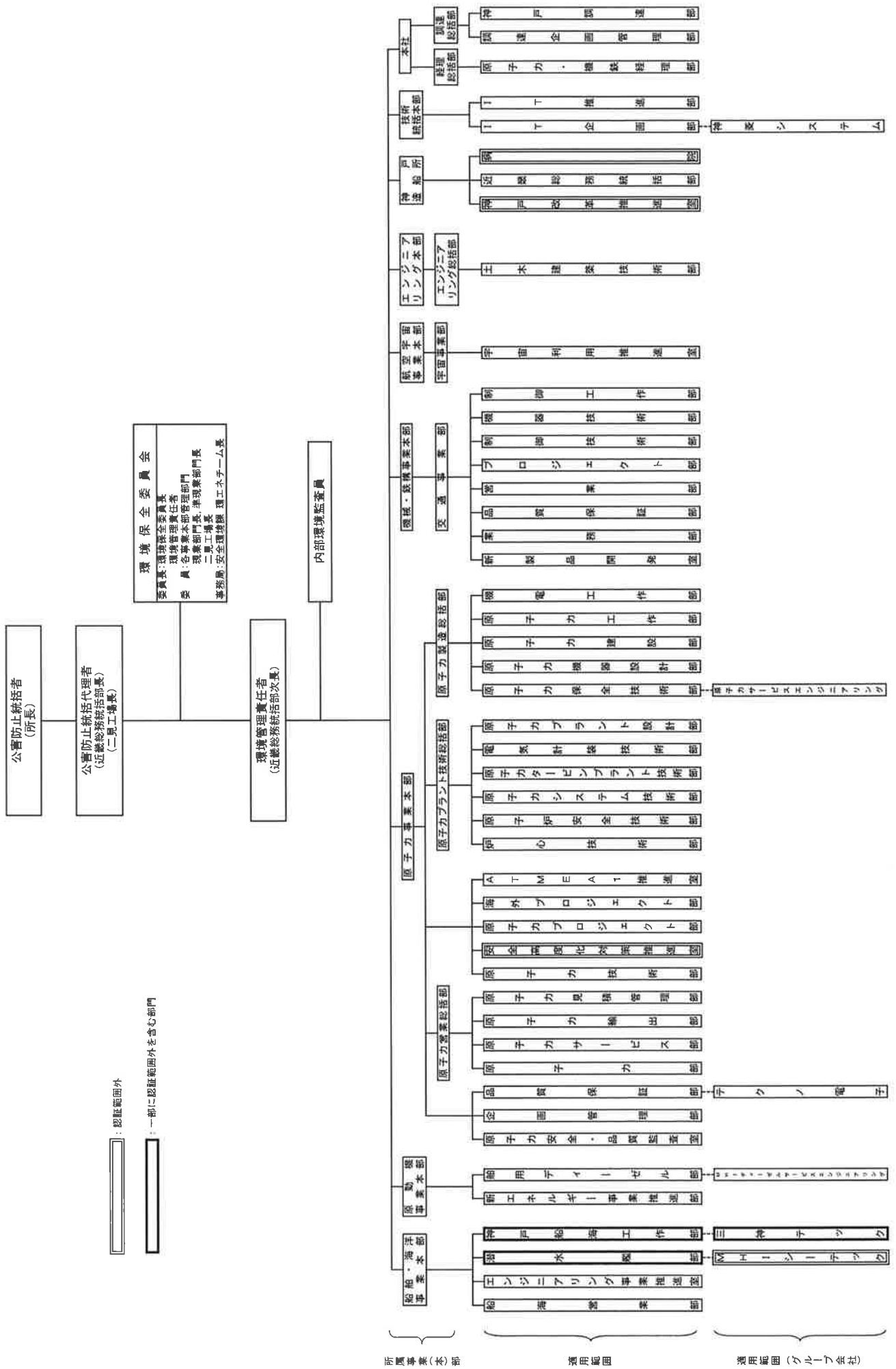
三菱重工業(株)神戸造船所 環境／安全衛生・放射線管理方針

神戸造船所は、社是「顧客第一の信念に徹し、社業を通じて社会の進歩に貢献する」に基づき、地球環境の保全・社会の継続的發展に寄与することを事業活動の基本とし、社会・お客さまが信頼・満足する優れた製品・サービスの提供と事業の継続的發展を目指して、以下の環境及び安全衛生・放射線管理に関する方針を定める。

- (1) 環境及び安全衛生・放射線管理のマネジメントシステムにおいて、事業活動の管理者の責任と権限を明確にし、当社コンプライアンス指針に則り、法令、規格、基準及び協定等を遵守し、社会的責任を果たすとともに、自主的な基準・目標を定めてこれを運用・評価し、事業活動及びマネジメントシステムの有効性の継続的改善に努める。
- (2) 社会・お客さまが信頼・満足する優れた製品・サービスを提供するために、所内の人材育成・組織力の向上及び職場の継続的業務改善を図り、誇りを持って安全に仕事のできる職場風土・環境を確立し、活力のある組織構築に努める。また、中長期的視野に立ち、環境・エネルギー問題の解決に貢献する、信頼性及び安全性がより高いオリジナリティーあふれる製品や技術の開発に努める。
- (3) 事業活動及び製品・サービスが環境に与える影響を認識し、技術的・経済的に可能な範囲で、環境保全及び環境改善活動の継続的改善を図り、汚染の予防・環境負荷の低減に努める。
- (4) 全員参加の安全衛生・放射線管理活動を積極的に推進することにより、事業活動のあらゆる面で、安全衛生・放射線管理の継続的な維持・改善に努め、労働災害の防止を図る。
- (5) 従業員及び当所で働く全ての人に対して、所内広報活動・教育を通じ、本方針の理解と意識の向上を図るとともに、地域社会との協調を図り、積極的に情報を公開しコミュニケーションを重ねることにより、社会貢献・社会との共存共栄に努める。

平成23年 4月1日
三菱重工業株式会社
執行役員 神戸造船所長

所長 氏



平成24年度 所環境目的・目標一覧表（年度末フォロー結果：各部門報告用）

目的	目標	年度末フォロー結果[活動内容(計画及び実績)の概要]
行動項目 (何を)	区分 年度目標 (どの程度)	
業務プロセスの 経営品質向上	① 業務の高度化、効率化及び経営品質向上に繋がる業務プロセス(手順)の見直しと運用 (各部門毎もしくは各製品毎で、見直すべく当該プロセスを特定、実施。ものづくり革新活動の目標設定と実施)	各部門の重点実施計画に業務の高度化、効率化に関する項目を盛り込むことにより、業務プロセスの見直しを進めている。全体で97%の部門が計画通り達成。
	② 信頼性向上、品質トラブルの撲滅、クレーム費の低減に繋がる業務プロセス(手順)の見直しと運用 (各部門毎もしくは各製品毎で、見直すべく当該プロセスを特定し、見直し、実施する)※上述①に含めても良い	QC会議、QCパトロールの実施やクレーム費の見える化、関係部門との連携強化などにより信頼性の向上、クレーム費の低減に取組み、全体で81%が計画通り達成。
製品設計への 環境配慮	③ 製品環境側面が、設計インプット/レビュー情報として、確実に反映されるための仕組み作りと運用 (設計対象製品で、必ず環境配慮事項が反映されていること)	試験研究・新製品に対して「設計環境側面・環境影響評価シート」を作成し、環境配慮事項の明確化、設計レビュー時の確実な反映に取組み、計画通り達成。
リスク マネジメントの 強化	④ 法的要求事項及びその他の要求事項の確実な特定と定期的な順守評価による確実なフォローの実施 (当該要求事項が具体的で全て網羅され、順守評価されていること)	環境関連法令等の抽出・特定一覧表により該当する法令及びその他の要求事項を明確にし、特定した法令に対してチェックシートなどを用いた運用管理、順守評価を実施している。その結果、本年度も環境関連法令違反はなかった。各部門の達成度評価もすべての部門が達成。
	⑤ 部門のリスクの特定とリスク低減施策の推進 (リスクを明確にして、そのリスク排除のための施策を策定し、実施する)	部門のリスクを明確にし、重点実施計画に織り込んで実施フォローすることによりリスクの低減を推進している。全体で87%の部門がリスクの低減施策に挙げた項目が目標通り達成したと評価。
省エネ、省資源 活動の推進	⑥ 電力消費設備の省エネ推進 省エネアイテム(設備、運用)の洗い出しと計画、実施	本工場・二見工場ともに分科会を開催し、省エネ活動に取り組んだ結果、8課中6課で省エネに繋がる成果が得られた。又、FN棟に「リカバリーシステム」を具体的な活動に活用する仕組みを作り、着実に成果があがっている。
	⑦ 各部課単位での省エネ活動の推進 「省エネ、省資源活動自己診断チェックシート」による実施とフォロー	ほとんどの部門で設定した目標を達成するとともに、目標未達部門においても昨年よりレベルアップを果たしており、省エネ・省資源活動の推進に繋がったと評価。
	⑧ 省エネ法改正を踏まえた輸送エネルギー消費 原単位1%減(H23年度比)の達成	各部門とも輸送品の集約等、輸送の効率化に努めたが、ディーゼル及び原子力の大物の海上輸送案件が減少し、輸送費に占めるトラック輸送の割合が増大したことから輸送原単位は4.1%悪化した。
廃棄物発生抑制 の強化	⑨ ・一般廃棄物の排出原単位※13%削減 ・産業廃棄物の工場可燃ごみについて排出原単位※23%削減 ※1 社員一人当たりの一般廃棄物排出量 ※2 現業部門の社員工数あたりの工場可燃ごみ排出量	[全部門] ・一般廃棄物を抑制するため、排出部門記名制度を実施し、分別が不十分な部門を直接指導している。 ・キングファイル再利用化の仕組みを構築した。 [現業部門] ・廃棄物分科会を開催し、有価物の分別強化を促した。 ・木製パレットの持帰り化徹底により所内発生廃棄物を削減した。 【排出量実績(原単位換算)】 一般廃棄物；前年度比3%削減 産業廃棄物；前年度比3%削減(廃棄物重量は8%削減)